

第1回授業研究会

7月14日(火)

午前は、「朝の活動・朝の会」の提示授業を行いました。午後からは、岩城総合体育館にて、授業研究会とNPO法人地域ケアさぼーと研究所理事・女子栄養大学非常勤講師の下川和洋先生による講演会を行いました。

青森県立浪岡養護学校や青森県立青森若葉養護学校の先生方をはじめ、県内特別支援学校よりたくさんの先生方をお迎えして研究会を開催することができました。御参加ありがとうございました。

提示授業① 高等部2・3学年 自立学習(朝の活動・朝の会)

朝の会の健康観察では、友達存在を感じやすいように、また、次に自分が呼ばれることが分かりやすいようにバトンの受け渡しをしたことで、友達に視線を向けてバトンを差し伸ばしたり、受け取ったりと、やりとりしながら友達と関わる様子が見られました。自室で学習を行っている生徒は、iPad(双方向同時中継)を使って朝の会に参加しました。



提示授業② 小学部3年・中学部2年・高等部1年 自立活動(朝の活動・朝の会)

友達への意識や関わる気持ちをもちやすいように、活動に合わせてお互いが見やすい配置に移動したり、教材やカードを友達に渡したり、一緒に楽器を持って歌ったりしました。友達とやりとりできる場面を設けたことで、表情や身体の動きで楽しい気持ちを表す様子が見られました。



授業研究会

協議題 「コミュニケーションの深まりを目指した授業について」

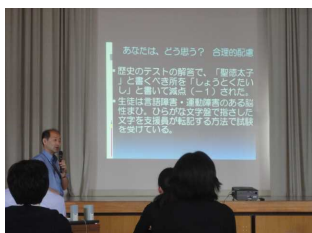
2つのグループに分かれて協議を行い、「友達と関わろうとする気持ちを促す教材教具の活用の仕方」や「友達と関わりを深める場面設定の工夫」について、活発な意見交換が行われました。

【協議会より(一部抜粋)】

- iPadをコミュニケーション支援のツールとした集団学習への参加が大切。
- 児童生徒が視線を共有できるような物を介し、関わる場面の設定をする。
- 児童生徒の様子から気持ちや思いを汲み取ったやりとりを大切にする。
- 児童生徒が友達に注目できるように、教師の立ち位置や授業展開の仕方を工夫する、...

講演

講師のNPO法人地域ケアさぼーと研究所理事・女子栄養大学非常勤講師の下川和洋先生より、「重い障害のある子どものコミュニケーションを考える～コミュニケーション支援の基礎からICT機器を用いた実践まで～」という演題でお話をいただきました。重い障害のある方のコミュニケーションにおける困難度と支援する上での配慮について演習を通じて体験したり、ICT機器によるコミュニケーション支援について具体的に紹介していただいたりと、大変心に残る講演となりました。



【講演より(一部抜粋)】

- 子どもの生理的指標(筋緊張のトーン、酸素飽和度、心拍数、血圧、体温、脳波、筋電図等)を利用することで、指導・支援者の関わり方が大きく変わってくる。
- ICT機器はコミュニケーション手段であり、機器を使うことが目的化されるのは間違いである。子どもがICT機器を使って何を伝えたいのかを考えなくてはならない。
- 子どもが何を伝えたいのかを聞き取るためには、教師が感度を高くして子どもに接していくことが大事である。